

# 令和6年度浜松市立篠原小学校 学校評価報告書

## 1 令和6年度の取組

【学校教育目標】心と心が響き合う学校 ～自分や友達のよさを知り、共に高め合う子～

	【徳】にこにこ	【知】きらきら	【体】ぐんぐん
目指す子供像	自他のよさを大切にする子	主体的に学び合う子	粘り強くチャレンジする子
重点的な活動	・自己を見つめる道徳科授業 ・子供主体の特別活動	・主体的に学習に取り組むための授業計画 ・学びを深める対話活動	・課題を意識し、次に生かすための振り返り ・粘り強く取り組むぐんぐんカードの活用

## 2 自己評価

### ○ 児童の評価

※「とても思う」と「思う」と回答した割合(%)

R 6

R 5

R 4

【徳】 にこにこ	進んで挨拶をしている。	78.6	80.4	79.2
	自分にはよいところがある。	78.9	79.3	77.4
	友達のよさを知ろうとしている。	89.4	87.1	88.6
	友達と関わったり、協力したりすることは、楽しい。	94.8	93.6	94.5
	ルールやマナーを守って生活している。	85.6	90.0	86.5
【知】 きらきら	授業は、楽しく、よく分かる。	84.2	83.2	82.7
	授業で相手の話をしっかり聞いたり、自分の考えを伝えたりしている。	83.0	81.9	79.3
	めあてに向かって、学習に取り組んでいる。	84.2	84.7	78.6
	授業中にタブレットをうまく使って、学習に取り組んでいる。	89.7	91.8	89.3
	進んで家庭学習(宿題)に取り組んでいる。	87.2	84.4	82.1
【体】 ぐんぐん	失敗を恐れなくて、挑戦している。	75.2	72.9	75.0
	最後まであきらめずに粘り強く取り組めた。	84.0	81.8	80.4
	外で元気に遊んだり、運動したりしている。	80.7	73.3	76.0
	「早寝、早起き、朝ごはん」ができています。	78.7	79.5	78.7
生徒指導・家庭 地域との連携	クラスは楽しく安心できる場所だ。	84.8	84.8	89.8
	先生は、よく話を聞いてくれて、相談しやすい。	88.6	88.6	90.5
	家の人と学校の話をよくする。	82.3	79.8	81.3
	地域の人自分たちをよく見守ってくれる。	86.6	87.2	86.2

### ○ 保護者の評価

R 6

R 5

R 4

【徳】 にこにこ	子供は、進んで挨拶をしている。	69.7	70.8	70.2
	子供は、自分にはよいところがあると感じている。	88.9	90.5	89.0
	子供は、友達のよさを知ろうとしている。	86.3	92.7	94.6
	子供は、友達と関わったり協力したりすることを楽しいと感じている。	94.6	96.3	95.7
	子供には、自ら進んで取り組もうとする主体的な態度が育っている。	75.7	75.8	
	子供は、ルールやマナーを守って生活している。	90.4	91.0	91.3
【知】 きらきら	子供は、授業が楽しく、よく分かると感じている。	73.8	76.9	79.7
	子供は、学校で友達と関わりながら、自分の考えを広げている。	89.7	90.2	91.3
	子供は、授業のめあてを意識して、学習に取り組んでいる。	73.6	72.8	78.3
	子供は、タブレットを効果的に使って学習している。	75.2	81.8	84.8
	子供は、自ら家庭学習に取り組む習慣が身についている。	59.4	61.5	67.2
【体】 ぐんぐん	子供は、挑戦する気持ちが育っている。	74.0	73.0	77.4
	子供は、最後まであきらめずに粘り強く取り組むことができる。	69.6	67.2	71.0
	子供は、外で元気に遊んだり、運動したりしている。	74.4	75.0	73.7
	子供は、早寝、早起きをして朝ごはんを食べるなど規則正しい生活ができています。	84.7	86.0	85.8
生徒指導・家庭 地域との連携	学校は、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組んでいる。	82.5	82.1	90.8
	学校は、面談や教育相談などが充実し、気軽に相談しやすい。	80.4	77.9	85.3
	子供と学校の話をよくする。	84.8	87.1	91.0
	地域の人子供たちを見守ってくれる。	75.7	75.3	77.4
	学校は、学校(学年)だより、ホームページ、ブログ、さくら連絡網等で積極的に情報を発信している。	92.5	92.2	89.4

○ 教職員の評価 ※85以上A、70～84B、55～69C、54以下D		R 6	R 5	R 4
【徳】	進んで挨拶する子が育っている。	D 38.2	C57	C
	自分のよさを大切にする子が育っている。	A 85.3	A85	A
	友達のをさを認めようとする子が育っている。	A 94.1	A95	A
	人との関わりを大切にする子が育っている。	A 91.2	A92	A
	(教師が) 子供に自己を見つめる道徳科授業になるように授業を行った。	A 88.4	A95	A
	(教師が) 子供主体になるよう特別活動の指導をした。	A 94.1		
【知】	子供は、自ら進んで取り組もうとする主体的な態度が育ってきている。	A 88.2	A89	
	(教師が) 子供が主体的に学びに向かえるような単元構想を立てた。	A 100	A99	A
	(教師が) 単元で付けたい力を明確にして授業を進めた。	A 96.7	A95	A
	(教師が) 対話的な学習を充実させた。	B 80.7	A95	A
	(教師が) キャリア教育を意識した授業を行った。	C 66.7	C68	C
	(教師が) ICT を積極的に活用して授業を行った。	B 70.5	A86	A
【体】	進んでチャレンジする子に育っている。	A 85.3	A85	A
	最後まで粘り強く取り組める子が育っている。	B 73.5	B82	B
	(教師が) 子供が授業の中で課題や目標を意識し、次に生かすための振り返りができるように指導した。	A 87.1	A89	A
	(教師が) 子供が行事や児童会活動の中で課題や目標を意識し、次に生かすための振り返りができるように指導した。	A 94.1	A89	A
	(教師が) 子供が粘り強く取り組むために、ぐんぐんカードを効果的に活用した。	A 85.2	A88	B
生徒指導・家庭地域との連携	いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組んだ。	A 100	A99	A
	子供や保護者の話をよく聞き、相談や面談を行った。	A 97.1	A95	A
	便りやホームページ、ブログ等で情報を発信した。	B 76.4	B75	B
	外部講師や地域の方を活用して授業(活動)を行った。	A 85.2	A92	B

### 3 アンケート結果から (▲課題 ◎成果)

#### (1) 【徳】の項目

- ①▲「進んで挨拶をしている」については、児童、保護者、教職員ともに低かった。
- ②◎「友達と関わったり、協力したりすることは楽しい」は、児童、保護者共に高い評価となっていて、友達との関わることのよさを感じる子が非常に多い。

#### (2) 【知】の項目

- ①▲「進んで家庭学習に取り組んでいる」については、児童(87.2%)と保護者(59.4%)の割合に認識の違いがある。家庭学習のねらいについて、今一度説明する必要がある。
- ②◎「授業は、楽しく、よく分かる(84.2%)。」と回答した児童が過去3年間で最も高い。全教職員が「子供が主体的に学びに向かえるような単元構想を立てた。(100%)」と回答しており、校内研修を中心に授業改善に取り組んだ成果と考えられる。

#### (3) 【体】の項目

- ①▲「失敗を恐れなくて、挑戦している(75.2%)」と思う児童が低い。また、保護者は、最後まで粘り強く取り組んでいるかという点でも厳しく捉えている。
- ②◎「子供が課題や目標を意識して活動に取り組むよう指導できた(94.1%)」と考える教職員の割合が高かった。児童・保護者の意識との差があり、継続して取り組む必要がある。

#### (4) 生徒指導・家庭地域との連携の項目

- ①▲全ての教職員(100%)が「いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組んでいる」と思っているが、「クラスは楽しく安心できる場所だ」と回答した児童は84.8%である。
- ②「学校は、面談や教育相談などが充実し、気軽に相談しやすい」と思う保護者は、3年間で最も高い数値(92.5%)となった。「保護者顔合わせ」「個別面談」等の取り組みを行った成果が表れた。

#### 4 学校運営協議会委員による評価

2月5日（水）に開催した学校関係者評価委員会（学校運営協議会）において、自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告。委員からは以下のような意見があった。

- いじめ防止の取り組みについて、教職員全員が「未然防止に取り組んでいる」と評価している。これは、教職員が初期対応を大切にし、複数人のチーム体制で対応していることの結果だと分かった。保護者の評価が8割になっているのは「いじめをなくしてほしい」という思いが表れているので、学校が行っている「未然防止・早期発見・早期対応」の具体的な取り組みについて、保護者にもっと積極的に発信してよい。
- 全項目とも、児童の評価が高い。これは、児童の自己肯定感が高いということであり、子供たちの自立につながるので良い傾向だと思う。また、児童の「友達と関わったり協力したりすることは楽しい」の評価が高く素晴らしい。学校で経験できる「集団行動」の良さを子供たちが感じている結果だと思う。
- 児童の「失敗を恐れない」「最後まであきらめない」の評価が高く素晴らしい。これらの項目は、すぐに結果が出る項目ではないので、今年度取り組んできたことを、来年度も継続してほしい。

#### 5 今後の改善方策

学校関係者評価を受けて

- (1) 学校は、誰もが安心できる環境のもと、自ら学習を調整して粘り強く取り組んだり、他者と協働して課題を解決したりする場だと捉え、学校教育目標「心と心が響き合う学校 ～自分や友達のよさを知り、ともに高め合う子～」を達成していく。
- (2) 校長の経営方針として、以下の3点を重視していく。
  - ① 自立に重点を置き、子供を主語とした教育活動を推進する（自己決定・自己選択）
  - ② 全教育活動において、付けたい力と振り返りを大切にした取組を行う。
  - ③ 地域や保護者に教育課程を進んで開く（学校と保護者、保護者同士のつながり）
- (3) 今後も、いじめ防止に向けて、初期対応を大切にし、チーム体制での取組（聞き取り、事実確認、指導の取り組み）を継続して行うとともに、子供へのアフターフォローも大切にしていく。また、情報モラル講座や法教育講座等の活動に保護者も参加できる機会を設けたり、いじめ防止に向けた取組を発信したりしていくことで、保護者に安心感をもってもらう。
- (4) 子供たちの高い自己肯定感をいかし、子供がより主体的に取り組むことができるよう、「知」「徳」「体」のそれぞれで重点活動を設定し、活動後には自分の活動を振り返ることで、主体性を育む。
  - ① 「知」（きらきら）…『意図的な自己選択・自己決定の場の設定』  
『学びを広げる、深める対話活動』
  - ② 「徳」（にこにこ）…『自己を見つける道徳教育』  
『子供主体の特別活動』
  - ③ 「体」（ぐんぐん）…『課題を意識し、次に生かすための振り返り』  
『粘り強く取り組むぐんぐんカードの活用』
- (5) 来年度もコミュニティ・スクールを活用して地域の教育資源（人・もの・こと）を学習に生かすとともに、保護者が教育活動に参画できる機会をこれまで以上に設け、地域や家庭と連携しながら教育活動を推進し、社会に開かれた教育課程を実現する。